

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.52 2018.10

企画展

染付細密画 加藤五輔展

9/18
～ 12/28

明治5年(1872)に窯株制度・蔵元制度が廃止され、陶磁器製造・販売が自由化されました。それにともない多治見でも陶磁器製造者が増加し、陶磁器の粗製濫造が懸念されるようになっていました。一方で海外輸出拡大の流れの中で美濃では質の高い陶磁器製造をのぞむ声があり、市之倉をはじめ各地で品質向上のため技術開発がおこなわれるようになりました。

市之倉の加藤五輔は明治10年(1877)の第1回内国勸業博覧会で最も高い「鳳紋章」を受賞し、翌年のパリ万国博覧会では名誉賞を受賞するなど、美濃の陶器製造家のなかでも群を抜いていた人物といえます。五輔の得意とする技術は毛筆の染付細密画で、内国勸業博覧会の審査評語では「美質群を出づ」「青華(染付)鮮麗」とその技術の高さを称えられました。

企画展「染付細密画 加藤五輔展」では多治見市教育委員会の所蔵品のなかから、現代の私たちをも魅了する精巧で緻密な五輔作品を紹介します。

「染付細密画 加藤五輔展」

期間 平成30年9月18日(火)～12月28日(金)

場所 多治見市文化財保護センター展示室

入場 無料

企画展



「染付細密画 加藤五輔展」

期間：平成30年9月18日～12月28日



▲染付蝶菜の花図花瓶（多治見市教育委員会所蔵）

加藤五輔（1837～1915）は天保8年（1837）に市之倉の窯元・嘉右衛門の長男として生まれました。五輔の家は代々の窯元で、京都村雲御所の御用窯として良質な染付磁器を生産していました。このような中で五輔をはじめ、多くの名工が市之倉から輩出されています。

明治時代の初め、西浦圓治が市之倉の丸窯（大型製品を焼成するのに適した登り窯）で初期の輸出製品を焼かせていたころ、この工場の製作主任として従事していたのが加藤五輔でした。圓治との出会いによって、心魂を傾けて焼き物づくりに専念する五輔の作品が一気に花開き、世に知られるようになっていきます。その後圓治から独立し、市之倉字中島の丸窯でコーヒー碗皿や乳入れ、水差し、花瓶などを焼いており、このころの丸窯での製品が五輔作品の中でも特に優秀であったといわれています。

五輔作品の特徴は、毛筆で描かれた精巧で緻密な染付細密画で、草花や風景など純日本的な題材を繊細なタッチで表現したところにあります。細密画を成功させるために、五輔は原料についての研究に人一倍熱心であったと伝えられています。土は数年寝かせてねばりを持たせ、呉須は半年もすって使うなど、その作り方については家族にも教えなかったといえます。

五輔の作品は明治10年（1877）の第1回内国勸業博覧会での鳳紋章をはじめとして、パリ万国博覧会では名誉賞を受賞するなど数多くの博覧会・品評会で高く評価されました。



▲加藤五輔（多治見市図書館所蔵）



▲染付菊図煎茶碗（多治見市教育委員会所蔵）



▲「温知図録」（東京国立博物館所蔵）
博覧会のため政府が全国の工芸家に与えた図案集

小学校出張授業！

子どもたちに文化財や歴史資料に触れてもらう活動の一環として、小中学生を対象とした「昔の暮らし授業」を開催しています。この授業では、市内の古代遺跡や大昔の人々の暮らしについて当館の職員が講義を行い、火起こし体験・復元した古代の衣服（貫頭衣）の着用体験・勾玉作りなどの体験学習も併せて行います。

今年度は4月に北栄小学校、5月に根本小学校に伺い、2時限ほどかけて授業を行いました。また、4月の池田小学校の遠足にも同行し、喜多町西遺跡公園にて、復元された高床倉庫や竪穴住居を見学しつつ、体験授業を開催しました。当館では「昔の暮らし授業」を開催する小中学校の募集を随時行っております。

▼喜多町西遺跡公園で。弥生時代の暮らしの説明



平成 30 年度 北小木のホタル生息数調査結果

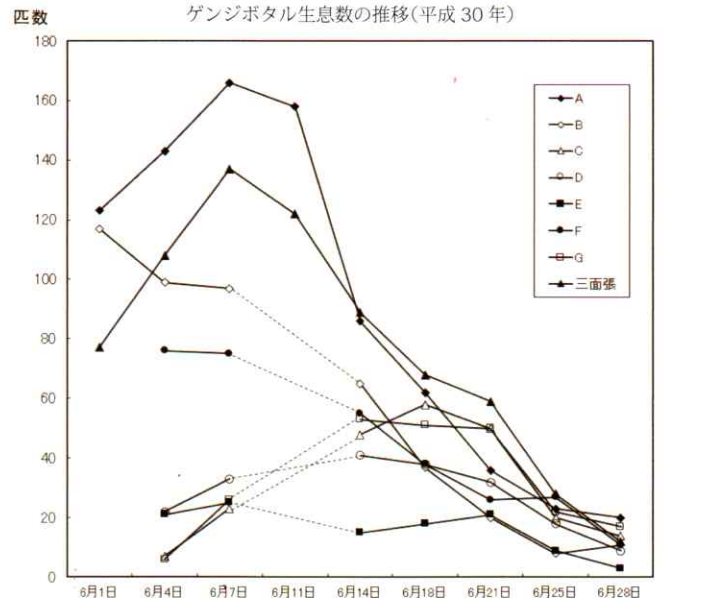
北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。その発生状況について、6月初め～7月半ばにかけて、ゲンジボタルとヘイケボタルそれぞれの調査を行いました。

今年はゲンジボタルの発生が例年より1週間～10日ほど早く、発生ピークも例年より1週間早くなりました。全体の生息数は昨年より少し多くなりましたが、大発生とはなりません。平成13年以降、ゲンジボタルは3年ごとに大発生を繰り返していましたが、昨年は気温が低い等の環境条件の悪化により大発生とはならず、近年はその周期が崩れています。今後ゲンジボタル生息の環境条件が整っていけば、また周期的に大発生していくと考えられます。

ヘイケボタルについては昨年と比べて生息数が多くなりました。特に天王橋より上流のA2地点と一之洞地点で増加し、A2地点では同地点の過去最高数でした。北小木町では田の水を1度切って乾田にする方法で稲作しているため、近年ではヘイケボタル数が減少していましたが、一之洞地点では周囲にレンコン畑があり、常に水がある状態のため、ホタル数が増加したものと考えられます。しかしA2地点が増加した原因は分かりません。

今後も調査を続け、ホタルの保護に役立てていきたいと考えています。

最後になりましたが、ボランティアに参加してくださった方々、北小木町や関係者の方々に、この場を借りて深くお礼申し上げます。



A地点：天王橋上流 B地点：天王橋下流 C地点：打越橋上流 D地点：打越橋下流
E地点：宮下橋上流 F地点：宮下橋下流 G地点：八曾橋上流 三面張：三面張改修地点
※6/11は雨のためA地点と三面張改修地点のみ調査。

大畑赤松3号古窯跡発掘調査

場所：多治見市大畑町赤松地内 調査面積：約 250㎡ 期間：平成 30 年 6 月 13 日～9 月 24 日

大畑赤松3号古窯跡は、多治見市街地の南東部、大畑町赤松地内の山林にあり、国道248号線の東部に位置する標高160mの南に延びる丘陵尾根上端西向き斜面に構築された古窯跡です。当初は3号窯1基だけが存在すると考えられていましたが、調査中に3号窯の右側に新たな窯跡が検出され、位置不確定とされていた4号窯が発見されました。

発掘調査では、2基の窯体と物原（不良品を廃棄した場所）のほか、土壌や作業場と見られる平坦面、さらに中世の炭焼窯と思われる遺構を検出しました。出土した遺物は、山茶碗や碗や小皿などです。遺物と窯体の観察から、3号窯が15世紀前葉、4号窯が14世紀後半の山茶碗を焼成した窯跡だとわかりました。この時期の窯は市内では数少なく、貴重な発掘例となりました。



▶ 3号窯から出土した山茶碗や小皿
◀ 3号窯（向かって左） 4号窯（向かって右） 窯体



カモシカの目撃情報が多数寄せられています

カモシカはウシ科の動物で、国特別天然記念物になっています。近年市内でも多く目撃されるようになりました。

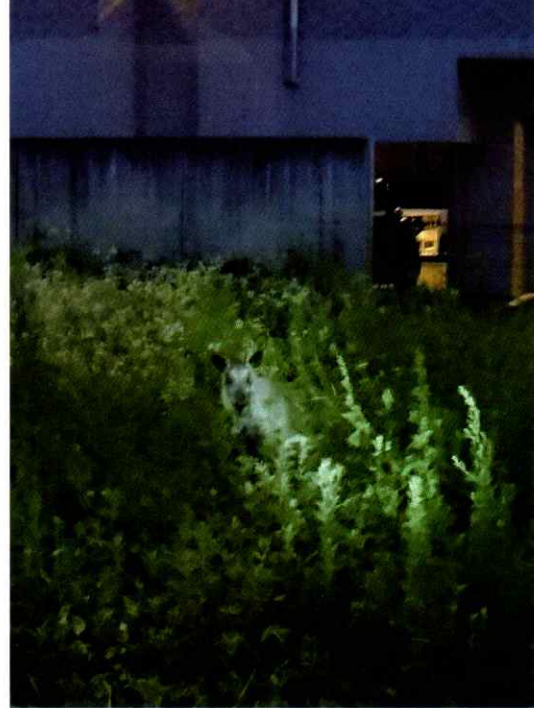
平成30年6月12日の昼頃、カモシカがJR多治見駅周辺で相次いで目撃されました。同日午後7時頃音羽町地内の空き地で発見され、警官、獣医と当センター職員で捕獲を試みましたが、逃走しました。その後、精華小学校近くの住宅に逃げ込んだカモシカに、獣医が吹き矢で2発麻酔を打ち、取り押さえて再度麻酔を打って、午後9時半頃捕獲しました。その後、そのカモシカを山に移動させ、放獣しました。

カモシカを目撃した際は近寄らず、見守ってください。

ケガなどをしている場合は、文化財保護センターまでご連絡ください。



◀ 捕獲したカモシカ



▲ 住宅街の空き地にいるカモシカ



コラム 多治見の祭り だいなんぶつ ～大原の大念仏～

小泉小学校区（旧大原村）では毎年7月に「大念仏」という独自の行事が行われています。寛政12年（1800）、大雨が続いた大原村では河川が氾濫してショウカン（チフス）が発生し、大勢の人が亡くなりました。病におびえた人々は死者の供養とお祓いを兼ねて、お盆が始まる7月1日より、鐘や太鼓を打ち鳴らしながら「なんまいだー」と念仏を唱えて練り歩くようになりました。

鳴り物の種類やお囃子の調子などが以前とは一部変わりましたが、現在も23区の町内会が7月1日より順番に念仏を唱えながら各地区内を巡回しています。



▲大念仏の様子

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26
TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033
E-mail: hogo-cen@city.tajimi.lg.jp
ホームページ: <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

〈利用案内〉 開館時間：9:00～17:00
休館日：土・日・祝日、年末年始
入場：無料

〈交通案内〉 タクシー：多治見駅から約20分
バス：東鉄バス「美濃焼団地前」下車 徒歩5分

